



写真提供:豊橋市文化財センター

1 棘葉形杏葉(国指定重要文化財)

馬越長火塚古墳(愛知県豊橋市)
古墳時代終末期 豊橋市美術博物館蔵

杏葉とは、乗用馬の尻付近の帯革につける馬具の一つで、トゲのある葉の形を模していることから「棘葉形杏葉」と呼ばれる。本品は鉄製の金属板にパルメット(忍冬)文を透かし彫りし、その上に銅を重ねて、厚く鍍金(メッキ)を施しているが、鍍金の遺存状況が極めて良く、これを所有した被葬者の地位の高さがうかがえる。



写真撮影:あいち朝日遺跡ミュージアム

2 弥生土器 台付壺

岡島遺跡(愛知県西尾市)
弥生時代中期 西尾市教育委員会蔵

この大型の台付壺は、第7次調査で発見された竪穴建物跡(弥生時代中期後半頃)から出土したもので、外面全体に赤彩を施している。岡島遺跡は弥生時代中期から古墳時代前期にかけて栄えた大集落であるが、本品と同じ形の土器は、他の遺跡では出土例がなく、全国的にみても、極めて珍しい遺物といえる。



写真提供:岩倉市教育委員会

3 須恵器 円面硯

下田南遺跡(愛知県岩倉市)
飛鳥~奈良時代 岩倉市教育委員会蔵

円面硯は、飛鳥から奈良時代の役人が用いた硯で、硯面が円形であることからこの名がついた。円面硯が出土する遺跡は役所か寺院、豪族層の屋敷地に限られるが、特にこの硯は非常に大型で、しかも脚が動物の蹄を模して作られた優品である。下田南遺跡では大規模な倉庫群も発見されており、郡衙などの役所があった可能性が高い。



写真提供:大府市歴史民俗資料館

4 龍泉窯系青磁蓮弁碗

石丸遺跡(愛知県大府市)
室町時代 大府市歴史民俗資料館蔵

外面に蓮弁の文様を有する青磁の碗。室町時代には、国内で磁器を生産することができず、この出土品も、中国からの輸入品として貴重な品物であった。石丸遺跡は鎌倉から室町時代の集落跡で、大溝に囲まれた区画から、掘立柱建物群とともに、燭台や花瓶のほか、花押(僧侶、武士ら上層階級のサイン)が記された陶器類が出土している。